



こんにちは。毎日、元気にお過ごしですか？もうお花見を楽しみましたか？過ごしやすい時期になりましたね。寒くないし、まだ暑くもないし...

皆さん、寒い時期といえば風邪などの病気、暖くなったら花粉症という症状を連想しますね。病状から解放されるには、医者診察を受けることですね。私は3月頃、ある病院に行き驚いたことがありました。（なぜかというのは後で説明します。）

さて、そのことがきっかけで、今月のテーマは『医療給付と健康保険システム』です。ドイツと日本の社会保障、なかでも医療保険について説明したいと思います。

ドイツの場合、国民は公的（88%）又は民間（12%）の医療保険に加入しています。公的医療保険は、治療費、薬剤費、入院費、そして予防費を給付し、保険料は税込み給料の11~13%で使用者と被用者がそれぞれ半分ずつ負担します。公的医療保険の加入者の家族で生業に就いていない者の保険料は納めなくてよいことになっています。ドイツは最も医療体制が整った国の一つであり、400万人以上の雇用を擁する医療・保険機関はドイツ最大の雇用分野でもあります。

日本の場合、皆さんもご存知でしょうが、国民健康保険（40.6%）と政府管掌健康保険（28%）に加入している人が多く、その他に組合管掌健康保険（23.6%）、共済組合（7.6%）、船員保険（0.2%）があります。政府管掌健康保険の場合、給料の8.2%を使用者と被用者で半分ずつ負担しています。ただし、医療費（薬剤、診療、緊急医療、入院などを含む）の30%を一部負担金として支払います。含まれていないのは、予防薬、健康診断、妊娠検査です。（びっくり！）

両国の医療保険のシステムに違いはあるのですが、では最初に述べた「ショック」について説明しましょう。（以下のことは私が個人的に受けた経験で、必ずしも全ての病院が同じ状況であるわけではないということをご理解ください。）

まず驚いたのは、「雰囲気」です。私がたまたま行ったところは超満員でした。玄関は靴だらけで、空いているスリッパもありませんでした。その時、受付室の中を見ると輪ゴムで束ねられたたくさんの書類が目に入りました。パソコンは？一台ありましたが、機能しているのでしょうか？

診察を待ちながら、治療室はどこにあるのかなど、周りをよく視察していると、やっと私の名前が呼び出されました。「中へどうぞ」「中へ」というのは控え室のことです。するとそこも超満員。それまで待っていたところと何歩かしか離れていない場所です。控え室の中に、カーテンがあって、この中に治療室があるのだとわかりました。控え室からカーテンの中の様子、治療椅子はもちろん、看護師や医者の足がバタバタして見えたと、患者との話も聞こえてきました。血圧が上がり、具合がよけいに悪くなりそうでした。しばらく待つと、再び「中へどうぞ」。今度の「中へ」という場所はカーテンの内側です。やっと医者2人きり...と思いましたが勘違いでした。「中へ」行ったらば、治療椅子の隣にまたベンチがあって、患者さん2人が待っていました！その時、もう体調はどうでもいい、帰りたい、と思いましたが、診察を受けるしかありませんでした。

今になって冷静に反省すると、現在患者のデータが紙というのは遅れているし、回転寿司みたいな感じで患者が流れていて治療を受けるというのは、プライバシーがありません。プライバシーという言葉が外来語で、もともと日本語の表現がないようですが、どうしてでしょうか？日本人は、混浴温泉には恥ずかしくて入りません。しかし、病気の時、倒れてしまうぐらい調子が悪い時、私ならとても敏感な気持ちで病院に行きますが、性別や気持ちは関係なく、回転寿司のようではないのでしょうか？皆さん、どう思いますか？個人情報についても、気になると思います。

最後になりますが、忘れずに伝えたいのは、治療給付に勤めている方々にはとても感心しているということです。この方々の能力、知識、技術に関しては、まったく疑問はありません！しかも、このような環境や雰囲気の中で働くのは、勇気、がんばり、強い精神がとても必要だと思います。感謝の気持ちがいっぱいです。皆様、大変お世話になりました。

それでは、今月の記事を読んでいただいている方は、医療を受ける必要のないように頑張ってくださいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

